

【研修報告】

ICN Congress 2017参加報告

村田由香*, 中村敦子*, 宗内 桂*

はじめに

2017年5月27日(土曜日)～6月1日(木曜日)スペインのバルセロナに於いて、International Council of Nurses (国際看護師協会: ICN) Congress 2017が開催された。今回の参加者は135か国から、8000人以上であった。ICNは、世界各国・地域の看護師協会から構成される非政府組織で、1899年に設立された世界初の国際的な保健医療専門職団体である。今回の大会テーマは「Nurses at the forefront transforming care: ケアの変容を行う最前線の看護師たち」であった。4日間のテーマは『Health care systems』／『Sustainable health care, disasters & conflicts』／『Quality and safety: workforce and workplace』／『Professional practice & policy innovations』であり、「変革」をキーワードにした講演が多かった。本大会で新ICN会長には、アイルランド出身のアネット・ケネディ氏が選出された。

また、現在世界遺産に認定されているサン・パウ病院 (Hospital de Sant Pau) とサン・ジュアン・ダ・デウ病院 (Hospital San Joan de Due) の小児がんユニットの施設見学に参加した。本稿では、印象に残った講演と施設見学の概要について報告する。

印象に残った講演内容と学び

1. 革新的なプライマリケアモデル

(Innovative primary care models)

演者: Jos de Blok

(ブルツェルグ・オランダモデル CEO)

“Buurtzorg”は、演者である Jos de Blok 氏 (地域看護師) がオランダで2006年に創業した非営利在宅ケア組織で、10年間で飛躍的に進化した革新的なプライマリケアモデルである。管理者は看護師で、質が高く包括的で持続可能な医療を提供している。個人、家族、地域住民が中心のモデルであり、コミュニティケアやセルフケアの視点を含み、地域住民の健康や幸福を促進し、疾病を予防し管理する。過去10年間で進化してきた新しい革新的な地域に提供しているモデルは、質の高い包括的で持続可能な医療

を提供するモデルである。個人と家族、地域住民が中心となったそのモデルは、設定者とスタッフ間で調整され、統合され、健康と福祉を促進し、寿命を超えて病気を予防し、管理している。

看護師は、患者中心のプライマリケア提供モデルの成功に不可欠であり、最高12人の看護師で1チームを編成し、5,000～10,000人の地域住民を対象に働いている。ケア対象者の多くは、慢性疾患と機能障害を起こした患者、複数の疾患を有する高齢者、終末期患者、認知症患者、継続的な治療や療養が必要なまま病院から退院した患者と多岐にわたる。また、この組織は、自助組織として成り立っており、自律と平等のもと、対象者のケアを実施している。従業員の高い教育水準を保ち、70%の登録看護師 (平均は10%) のうち40%が学士号を有している。看護師は自ら非公式ネットワークを活用して、自己研鑽・自己学習を促進している。ブルツェルグ・オランダモデルは、高質な組織として、生産の代わりにアウトカムを、プロセスの代わりに役割と活動を質評価している。また、看護職の職務満足も高く、「何千人もの看護師が伝統的な組織で仕事をやめ、ブルツェルグで働くためにきた。」と述べ、「小チームで働くこと」「自律的に働くこと」「革新的」「強いチームの信念」「使いやすいICT」などが職務満足の高い理由である。

顧客満足度は、質の高いケアについては、他の307のコミュニティケアのため組織と比較して、最高の顧客満足度9.1を獲得した。

組織の収益については、間接的な費用は8% (平均25%) であり、更なるケアの質改善と改革に費用を回すことができるように成果を挙げており、良質なケアを提供するためにコストを最大40%節約もした。政府は、すべての政党が、他のケア組織にブルツェルグのように働くように刺激しているとのことであった。

地域住民がお互いに助け合う自助を活かしたプライマリケアのモデルは斬新な取り組みであった。プライマリケアにおいて、看護師がジェネラリストと

* 日本赤十字広島看護大学

して包括的ケアを提供する力を身につけることはもちろんのこと、地域住民の自助・互助の力を活用し、組織運営するマネジメント力、調整力を修得することの必要性を再認識した。コミュニティケアやセルフケアを重視し住民同士で助け合うことで、健康への意識向上、顧客満足度の向上、コスト削減に繋がることが改めて認識した。また、ケアを変革するには当然のことながら、エビデンスが必要であり、そのためには研究する力も求められる。我が国においても社会の変化に応じてプライマリアケアを充実させていくためには、地域住民の健康を担うことのできる看護師育成が必要であり、看護基礎教育から卒後教育を通して教育内容を再考し体系化する重要性を再認識した。また、これらを調整する看護師の高い能力が必要とされ、看護師教育を再考する必要性を感じた。

2. ケアの変容を行う最前線の看護師

(Nurses at the forefront transforming care)

演者：Dr. Mary Wakefield

(元米国保健福祉省副長官)

持続可能な開発目標 (SDGs) は、ミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として2015年に国連が採択した。SDGsには17の目標があり、貧困や飢餓をなくす、健康や教育を改善する、気候変動と闘うなど、世界の持続可能な開発課題が幅広く網羅されている。SDG目標3の中心となるのがあらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進するである。この目標において、看護が重大な役割を果たす(国連開発計画 (UNDP) 駐日代表事務所, 2016)。看護は、持続可能な開発とその結果の新たな課題として、健康のための人的資源と普遍的な健康保険制度を重視している。看護は、健康問題を抱える人に対してだけでなく予防のためにも、平等・安全に提供されるべきであるが、現実には差があり必要な人へ提供されていないことが課題である。多くの保健システムにおいて、看護師は、プライマリアケアを最大80%提供する最前線のスタッフの中で主要な専門職の構成員である。看護は住民の健康に大きな影響を与え、ケアを変える可能性を秘めている。住民にサービスを提供するための実践、科学、知識、平等を統合する方法や、現在および将来の住民が直面する医療上の課題を理解し、看護が集中して関わることを強化すべき分野を特定することが必要である。

看護師は、人々の生活するあらゆる場で必要とされ、期待される力を発揮するためには、専門職として政策的な視点を持ち、視野を広げ、社会に働きか

けていくことの重要性を再認識することができた。社会の変化と人工知能をはじめとする様々な科学の発展に伴い、人々の健康と幸せな生活の維持に私たち看護職が深く関与していることを自覚しなければならないと感じた。

施設見学

サン・パウ病院 (Hospital de Sant Pau) はスペインのバルセロナに位置し、1997年、カタルーニャ音楽堂とともにバルセロナのカタルーニャ音楽堂とサン・パウ病院としてユネスコの世界遺産に登録された。この病院では2009年まで診療がおこなわれていたが、老朽化のために閉鎖され、現在は、修復が進められている。筆者らは、この病院の看護部門教育担当者より、スペインのヘルスシステムと院内の教育体制について紹介していただいた。

興味深かったのは、院内再教育のシステムである。本施設には、年間プログラムを有するトレーニング部署を有している。それぞれの看護師のスペシャリスト化を目指しており、院内教育によって専門としての資格を認められ、給料にも少し反映される。看護師の90%が専門分野の資格を有しているということであった。これらの教育を担当する看護師には、



写真1 ICN バルセロナ大会
第26回4年毎大会 会場風景



写真2 サン・パウ病院

修士課程を修了していることが条件であるが、特別なライセンスはなく、十分な経験を有する看護師が教育を担当している。各ユニットの看護師全員が同じレベルのスペシャリストであることを目標にしているということから、看護の質を高いレベルで維持し続ける努力をしていることを納得した。

文 献

国連開発計画（UNDP）駐日代表事務所. 持続可能な開発目標（SDGs）.
<https://www.nurse.or.jp/nursing/international/icn/katsudo/pdf/2017.pdf> [2018/ 9 /20].

